

「知らんよつて痛いと言ふたんやないか。」

「痛いと言ふてから、押してへんがな。」

「云ふまでには押したさかい、痛いと言ふたんや。」

「其の時は私は灸のある事を知らん。」

「知らんよつてに痛いと言ふたんや。」

「聞いてから押せへんがな、着物の中にある灸が外から見えるかい、そんなに云ふねんやつたら此の下に灸點御座候と書てはつとけ。」

喧嘩が出来てます。又後の方に立て居る人は脊がひくうて見えぬものですさかい脊伸びをしてまだ見えぬので、顔を長うして口を開いて見えます。中には氣の利いた者は

「へい、御免々々。」

「前へ出られへんで。」

「チョツと通して。」

「あかんと云ふのに。」

「オイ〜繩より出たらいかん。」

「へい、お殿様を拜みに來たんやおまへん。」

「そんなら何處へ行くのや。」

「嬢が子供を産みますので、取上婆さん呼びに行きます。」

「ア、そつか通れ〜。」

「オイ、彼奴うまい事云ふて出よつたなア。」

「そら人間二人生死の境やがな、お醫者へ行くとか取上婆さん呼びに行くのなら通して呉れるわいなア。」

「けども彼奴今嬢が子供を産むと云ひよつたが、彼奴まだ獨身やもめで嬢あらへんがな……ア、一寸見てみあんな所へ座つてよろうまい事仕よつたな、私も行つたる。」

「お前はあけへん。」

「イヤ大丈夫、へい御免へい御免。」

「コレ、何處へ行くのじや。」

「アハハハ……取上げ婆さん所へ行きます。」

「誰が子供を産むのじや。」

「へい、妹が。」

「何歳じや。」